

はじめに

道徳科の教材を基に授業を構想する場合、①「教材分析」、②教材分析を受けて指導過程を構成する「中心発問」の吟味、③補助発問やねらいを達成するための「効果的な手法」について考えます。しかし、実際に授業を実践してみると、想定どおりに展開されなかったという経験はありませんか。

本分科会では、模擬授業を通して、授業改善について、参加者の皆様と一緒に研修を深めていきたいと思っております。

1 使用教材：「心と心のあく手」（私たちの道徳）について

【教材の内容において、ポイントとなる部分】

- 「ぼく」は学校帰りに重そうな荷物を持っているおばあさんに出会った。
- 「ぼく」は、荷物を持つと声を掛けられたが、断られた。
- このことをお母さんに話をすると、「おばあさんは、歩く練習をしている」ことを知らされる。
- 数日後、おばあさんに出会った。
- 「ぼく」は、声を掛けようと思ったが、そっと後ろをついて行くことにした。
- おばあさんは無事目的地に着き、それを見た「ぼく」は、「心と心のあく手」をしたような気になった。

2 教材研究から（ねらいとする道徳的価値について）

「親切、思いやり」は、より良い人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として、相手に対する思いやりの心を持ち親切にすることに関する内容項目である。望ましい人間関係を構築するには、互いが相手に対して思いやりの心を持って接するようにすることが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対して良かれと思う気持ちを相手に向けることである。つまり、親切とは目に見える行為だが、思いやりとは目に見えない行為である。指導に当たっては、思いやりの良さや大切さについて一度立ち止まって考える必要がある。そうすることが望ましい人間関係を築くことにつながっていくと考える。相手の立場や思いを理解しようとしたり、気持ちを考へたりすることを通して、親切な行為を支える思いやりの気持ちを育みたい。

3 本時のねらい

ぼくのおばあさんに対する思いやりを考えることを通して、思いやりの良さや大切さについて理解を深め、思いやろうとする道徳的心情を養う。

4 この教材から、何を子どもたちに考えさせたいですか？

そして、それをどのように問いますか？